



日本道経会

4
No. 305
月号

本会の目的

本会は、「道徳経済一体」の理念に基づき、産業人教育の推進ならびに繁栄と永続の企業の創造につとめ、経済倫理の確立および経済界の安定的発展に寄与し、地球市民の一員として社会に貢献することを目的としています。

日本道経会会員社数 / 互敬塾塾生
717社 / 449名

(令和7年4月1日現在)

巻頭言

全国を繋ぐ互敬塾

(一社)日本道経会 互敬塾塾長
株式会社 原田フーズ 代表取締役

原田 晋一



現在、互敬塾の塾長を務めさせて頂いております原田晋一と申します。

互敬塾といいますのは50歳以下の若手経営者と幹部社員を対象としたネットワークで全国に20の支部があり、それぞれの支部の位置付けとしましては日本道経会（親会）の各支部の下部組織となります。

ですので、これまで各支部の活動に関しましては、それぞれの自主性にお任せして、自由な発想で支部運営をして頂き、道経一体思想を学ぶだけでなく当初想定していなかった形の例会（たとえばアウトドア例会や奉仕活動）、他にも他団体との共催なども行われてきました。しかしながら、コロナ禍を経て、活動が再度活性化した支部と、活動が停滞してしまった支部とに二極化してしまっているのが実情でもあります。

また全国的な活動として、全国の支部長がリアルで顔を合わせる全国支部長会議を年2回、全国の互敬塾生が一堂に会する互敬塾全国大

会を、主幹支部が持ち回りで運営することで2年に一回開催。これらの事業によって、横の繋がりが生まれ、道経一体という共通の価値観を持った、しかし地域や業種の違う全国の同世代の若手経営者同士が同じような悩みを共有し、交流を図る事が出来ています。

私が塾長として、この3年間取り組んで来たのは、これまで曖昧だった互敬塾の組織運営のルールや枠組みを明確にすることでした。基本的には互敬塾は親会の皆さんの後継者を育てなくてはならないという想いの上に成り立っています。その想いを無駄にすることなく、しっかりと支部活動をして頂くために、規約の全面的な改定、予算申請等のルールの厳格化などを実施してきました。

私の塾長としての任期はあと1年ですが、ルール・枠組みの整理は一旦形になりましたので、今年度はそれぞれの親会の代表幹事さんと連携しながら支部活動の活性化に尽力していきたいと考えています。

※令和7年11月14日（金）に千葉県柏市で互敬塾全国大会を計画していますので是非ともご参集くださいますようお願い申し上げます。



2月14日(金)17時から、麗澤大学新宿キャンパスにて、東京支部の三方善研究会を会員・互敬塾生など18名が参加して開催しました。講師には、公益財団法人モラロジー道德教育財団企業センターセンター長の藤井大拙氏をお招きし、「「三方よし」が現代に問いかけるもの」と題してお話いただきました。

講演の冒頭、現在の閉塞化した経済や物価高、そして上がらない賃金、一方で円安経済に伴うインバウンド需要はますます拡大し、我が国経済の景気回復が叫ばれる中、商品サービスへの価格転嫁や従業員の賃上げが課題となるが、これらには付加価値向上が必要不可欠となること。そのためには三方よしの思想が必要なのではないか。そもそも三方よしというフレーズは、SDGsが出現したこともあって、経済界においても頻出するようになったが、その論理や思想・哲学としての検討は十分でなく、現代のビジネスにおける三方よし思想の重要性を再考する必要があるのではないかとの問題提起がなされました。

そして、廣池千九郎博士の経済の捉え方は、法人も個人も一体で、人間の経済活動の全てを包含する道徳経済一体思想というものであり、「限りある経営資源の配分と調整」が経営のポイントとなること。また、現代の経済社会において我々が抱く価値観としては、サステナブル(持続可能性)とウェルビーイング(幸福)が鍵となるが、このうちウェルビーイングを高めるためには、心、体、社会的連携の3点をよくする必要があり、これにより幸福の向上に繋がること。また、三方よしの定義は、近江商人は「売手よし、買い手よし、世間よし」であり、モラロジーでは「自分よし、相手よし、第三者よし」であるが、自分よしとは決して利己的なことを意味するのではなく、自分よしにより、相手や第三者を幸福にすることを意味すること。すなわち、三方よしを実践することで周囲を巻き込み、持続可能性の向上に繋がることの説明を受けましたが、自らの精神と肉体を磨き、他者や世間と積極的に交わり高めていくことの必要性を実感しました。

会の途中では、事例に基づくディスカッションを行いました。グループに分かれた参加者同士で熱い議論が交わされ、グループ毎の様々な発表に会場が大いに盛り上がりました。

講演会の後は、会場のビルの地下にある「三国一」にて、藤井講師を囲んだ懇親会が催され、講演での話を踏まえた質疑や参加者同士での会話に花が咲き、盛会となりました。

幹事 丸山 純平



令和7年2月14日(金)午後5時20分から8時10分まで、橿原神宮養正殿において例会が開催されました。例会の講師には竹本教育研究所代表 竹本 三保 氏をお迎えし、「「国防」と「教育」～ 異業種のリーダーシップと理想の職場づくり～」をテーマに講演していただきました。

参加者は39名、講演の後は、竹本講師を囲んでの懇親会で楽しいひと時を過ごしていただきました。

竹本講師は、奈良女子大文学部を卒業後の昭和54年、海上自衛隊に入り、青森地方協力本部長、中央システム通信隊司令などを歴任して平成23年に退官し、24年から5年間、公募で就任した大阪府立狭山高校長を務められました。令和2年に自宅に竹本教育研究所を開設し、現在は母校の同大学に令和4年に新設された工学部の非常勤講師を務められています。

今回の講演では、はじめに、日本の宿命として「海に囲まれた貿易立国の日本にとって、海上防衛は最も重要」である、「教育」は「国防」と同じくらいに重要であるとして「国防」と「教育」は国の2本柱であると話されました。続いて、1.自衛官時代の振り返り、2.なぜ「民間人校長」をめ

ざしたか？ 3.二度にわたる異文化との出会い 4.“さやま”の取組みと挑戦 5.チームづくりのための情報の共有と共通の目標 6.キャリア・アップの必要性 7.校長としての覚悟と危機管理 8.自衛隊と教育現場における実践 9.組織のリーダーとしてのやりがい 10.理想の職場づくり、終わりに、竹本流「リーダーの本質」とは、についてお話しいただきました。

自衛官時代の振り返りの中では、完全な男性社会の中で、仕事に臨む心構えとして、最も大切なことは、Equal Rights Equal Risksであり、第2子妊娠中の訓練で体調不良を伝えたが休むことは出来なくて流産するという辛い経験を話されました。また、「後輩に道をつくること」を自分の目標として、誰かのために頑張ることが、自分の目標達成につながると強調されました。

なぜ「民間人校長」をめざしたか、については、10代の頃から「国防」と同様に重要だと考えていた「教育」分野

への挑戦、日本の将来を担う若者を育てたいという思いが、自衛官退官の時期が近づくにつれ、次のミッションとして頭の中を占めていき、そんな時に、大阪府が実施する府立学校長の公募が目にとまり、挑戦した結果、平成23年9月に合格通知を手にしたと話されました。

また、自衛隊と教育現場における実践のお話の中では、「危機管理」と「隊員・教員・生徒」を鼓舞することや部下、教員のキャリアアップ、結果を出すためのチーム作り(数値目標を与える)が重要であると話されました。ほかにも、個人としても組織としても自己実現と社会貢献が大切である、理想の組織とは不安がなくて認めてもらえる組織である。最後に、リーダーの役割・本質とは、覚悟を決めること・自分が何とかするという覚悟、統率力を磨くこと・人間磨き、社会で何かの役に立つという生き方をすることであると話され、講演を締め括られました。

事務局 上田 豊彦

◆ 佐賀支部 道経一体経営セミナー

2月15日(土)道経一体経営セミナーを、アバンセ4階第2研修室、参加者11名で開催。

第一講 藤井大拙講師「日本型経営と欧米型経営の大きな違い」企業文化と価値 2、競争戦略と経営スタイル 3、経営理念(存在意義)とビジョン(将来の目標)について、それぞれ具体的な事例を挙げ解説頂き、日本型経営と欧米型経営の其々の特徴及び短所、長所を解説され、経営面での活かし方について詳しくレクチャー頂きました。

第二講 窪山忠成講師「徳づくりの経営第二章顧客づくり・ものづくりと致富の経営」顧客満足(CS)とは何か?顧客とは何か?顧客づくりとは何か?を学ばせて頂きました。

窪山講師の心に響く解り易い口調での講義から、参加者同士のディスカッションタイムへと移り“あなたの商品・サービスは何ですか?”“それは、誰の、何の困り事の解決や、「喜び」の創造「便利さ」の満足などに役立っていますか?”をディスカッションしました。そこでは、自分が携わる事業について改めて考える機会となり、また会員各位が行っておられる事業について知れるとても良い機会となりました。そうして自社製品の価値を見直す「TPOS」タイム、プレイス、オケーション、スタイルに当て嵌める講義では、自社製品の強みを把握しプレゼンテーション力を高める事で、商品、サービスについての価値を際立たせ、説明力を高める必要性も同時に学びました。

第三講 藤井大拙講師「道経一体の自分づくり、ひとづくり」どうして人は働くのか?働いた報酬とは?事業を通じて人は幸福になれるのか?そのようなテーマについてパワーポイント画面を使い様々な事例を示して頂き講義いただきました。

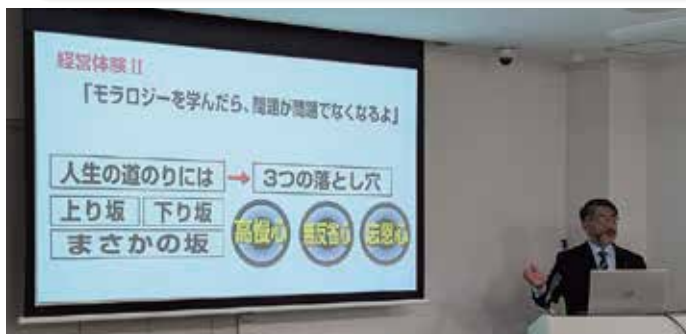
3時間半に及ぶ今回の道経一体経営セミナーは、終わってみると、現在の社会動向を俯瞰しているような貴重なお話でした。道徳が薄れると法が蔓延る社会となるように、法や規則で縛る事よりも、皆が道経一体社会を維持して行こうと思える”環境づくり”モチベーションの維持こそが経営者(トップ)の責任である事を、改めて気付く事の出来た貴重な機会でした。

世界中で分断が進む今、社会が最も必要としている人々の意識(心の状態)こそ此処にあり。

事業研修委員長 三原 宏樹



大阪支部 道経一体経営セミナー



3月3日(月)「道経一体経営セミナー」を、奈良支部代表幹事の油谷謙之氏を講師にお招きして開催しました。当日の参加者は31名でした。会場は大阪支部会員企業のジャトー株式会社の研修室をお借りして開催しました。

従来は土曜日の午後より2名の講師をお招きして開催しておりましたが、休日の開催ですので、参加者が少ない状況が続いておりました。今回は思い切って簡便にはなりますが、月例会形式で、週日の夕刻6時よりの開催に変更しました。この結果を後日検証したいと思っております。

当日は油谷講師により「企業は環境適応業～順応しつつ真理を守るもの残る～」とのテーマで、モラロジーの創業者廣池千九郎博士による「道経一体思想」の成り立ちの説明とともに始まりました。道徳科学の論文には経営者に必要な「生存競争論」が書かれているとのご説明でした。又、経営者から見ての最高道徳(無償の愛)と普通道徳(有償の愛)との違いを分かりやすくご説明頂きました。創業以来125年を迎えられる、合資会社油谷印刷所の成立の経緯と、ご自身の経験と経過をご説明頂きました。最後に「人生はこのルールに基づいた、生き残り合戦、人喜ばせ合戦」とのお言葉で、締めくくられました。

講義後はジャトー株式会社の福利厚生施設でもありません、和食レストラン「茂楽樹末広」で打ち上げの懇親会を開催しました。会員と互敬塾生も交え楽しい一時を過ごしました。

事務局長 藤岡 庸一

南九州支部 2月例会



令和7年2月18日(火)18時30分より宮崎市中央公民館において、出席者9名で南九州支部2月例会を開催しました。例会に先立ち、誓いの言葉を全員で唱和し、赤澤 文義 代表幹事より開会挨拶をいただきました。次に、有限会社 建設ネット 代表取締役 佐々木 健作 氏の入会式を行い、推薦人の赤澤代表幹事より紹介と佐々木社長より自己紹介をいただきました。佐々木社長は、9月・10月・11月例会にオブザーバー参加をさせていただいており、本会の「道徳経済一体」の理念に賛同しての入会に、

会員一同、共に活動できる事を大変嬉しく思っております。続いて例会に入り、今回の演題「わが社と道経一体について語る」と題して、3人の会員に講話をしていただきました。まず初めに、三ツ矢技研代表 太田 康明 様に、事業内容・会社名の由来(みつつの矢)・道経一体について講話をいただき、二人目に、有限会社 カムイ電工 代表取締役 原川 智充 様に、事業内容・会社名の由来(カ・ム・イ)・道経一体について講話をいただき、三人目に、代表幹事でもあります、アーバンアメニティ設計 有限会社 代表取締役 赤澤 文義 様に、事業内容・会社名の由来(アーバンアメニティ)・道経一体について講話をいただきました。質疑応答の時間も、いろいろな質問が出て、道経一体についてより一層理解が深まりました。最後に記念写真を撮影して、2月例会を閉会いたしました。会員の皆様、誠にありがとうございました。

副代表幹事 兼 事務局長 内倉 信一

本会報のバックナンバーはホームページでご覧いただけます。

NIHON DOHKEIKAI <http://www.ndk.gr.jp>

一般社団法人

発行：**日本道経会**

〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL. (04) 7173-3172 FAX. (04) 7173-3134
E-mail office@ndk.gr.jp

事務局だより

花々がキレイに咲く季節となりました。本部事務局も新年度を迎え新たな気持ちでスタートを致します。今後も道経一体経営・三方よし経営にお役に立てるように努力いたします。 本部事務局